

2009年の皆既日食情報 (第零報)

木村 精二

①発端は昨年9月15日付、外国からの問い合わせ

昨年(1991年)のハワイ・メキシコ日食が終わって間もなく、オーストリア・ウィンのアマチュア天文家ピーター・ラインハルト氏から、1通のエヤメールが届きました。「拝啓、質問があります。ちょうど中心線上の小さい島、トカラ列島中の Akuseki島へ行くのは可能でしょうか。または、Akuseki島に近い Suwanose島へは如何でしょうか。九州南の同島付近では2009年7月22日に大きい皆既日食があります。継続時間は約6分20秒で、世界時2時の太陽高度は約67度、日本時では何時でしょうか。きっと非常に多くの人がこの条件の良い日食を見に行くでしょう。同島に数日間滞在できますか。宿泊は九州でしょうか。...」な、なんと18年先、つまり1サロス後の、日本からは46年ぶり、継続時間の非常に長い皆既日食についての問い合わせではありませんか! さらにラインハルト氏は、1999年8月にオーストリアで約2分20秒の皆既日食があるから歓迎する、と付け加え、ハワイのコナで写してきたばかりの皆既日食の立派な写真を同封して下さったのです。アクセキ? スワノセ? 私は驚きました。トカラ列島という名前は承知していましたが、個々の島の名前は全く初耳です。さっそく、「黒い太陽を求めて」(地人書館1982年発行・「天文と気象」別冊)を調べました。見開きで「日本付近の日食帯経路図 1983-2035年」が載っています(これは筆者が作成した図です。手前味噌になりますが好評で、よく使われ、しかも出典を明記せずにあちこちに転載されたとか)。2009年7月22日皆既日食帯の北限界線は屋久島の中央を、また南限界線は奄美大島を横断してます。その間に4つの小さい島々が点在していますが無記名です。(反省しました。島の名前を入れるべきでした。日本の陸上で皆既日食が見えるのは、この島々以外には東南東遙か1000km以上も沖合いの北硫黄島と硫黄島しかないのですから)。次に取り出したのは一冊の日本地図。確かに屋久島と奄美大島の間は吐噶喇列島です。島の名前は、口之島・中之島・臥蛇島・平島・諏訪之瀬島・悪石島・小宝島・宝島・横当島・上根島(手持ちの古い英国の地図は、諏訪之瀬島のことを Suwase-Muninto-sh. と記していました。このことに関してはずっと後で触れます)。日本地図と日食帯図を重ねると、後者の4つのポチポチした島は、中之島・諏訪之瀬島・悪石島・宝島であることが判明しました。間違いなく、ラインハルト氏の書かれたとおり、諏訪之瀬島と悪石島付近を中心線が通ります。さて、つぎの行動は――。

②時刻表・ガイドブックにない吐噶喇列島、詳しい情報は現地の村役場から

JTB発行の定評のある1000ページを越す時刻表を開きました。交通機関のページを知るために巻頭の地図を見てビックリ。上記の筆者の日食図とはほぼ同じポチポチした島が6つほどありますが、トカラのトの字も記入なし、従って航路の時刻表どころかアシの有無

も不明です。次の手は、どこの書店でも所せましとばかり並んでいる旅行ガイドブック。どれでも同じだろうと思い（実はこれが早合点であることを後で知りました）、シリーズ物のうち九州編を手にとってページをめくると、何とお目当ての列島は上記の時刻表と同じく記述がなく、完全に無視されていました。そこで思い付いたのは、鹿児島市出身の知人のこと、さっそくお聞きしてみると、その列島に行った事はないが交通機関はあるはず、地元の親族に問い合わせましょう、との嬉しい返事でした（日食情報センター主催のハワイ・メキシコ日食報告会が開かれたのは、ちょうどその頃だったと思います。私はオーストリア・ウィーンからの手紙を紹介し、いま情報を集めようとしているところ、いずれ報告しますと約束したのが、同センターのスタッフからの求めに応じてこの拙文を書くことになった動機です）。それから間もなく知人から戴いたのは、「吐葛喇」という表題でA4判32ページ（平成3年7月刊）と同じく19ページ（数年前刊行）の小冊子、それに同じ表題でA5判折り畳み式パンフなどなど、いずれも鹿児島県十島村役場が発行したもので、欲しいと思っていた情報がぎっしり入っていました。とりあえずラインハルト氏には、ハワイでの皆既日食写真の礼状と合わせ、自信をもって次のように返事をしたためたのです。「... たしかに2009年（18年後!）の条件の良い皆既日食の観測地点は、トカラ列島でしょう。日本時では11時数分前です。宿泊するのはいずれかの島がいいか、鹿児島がいいか、今のところはハッキリ申し上げられません。1999年にオーストリアでお会いする時には、詳しい情報を差し上げられましょう。後者の日食の情報を頂戴できれば幸いです」

続いて本誌用の原稿を打とうとして机に向かいましたが、どうも筆、いや指が進みません。（十島村役場発行の小冊子のお蔭で）最新情報は充分にあるのです。各島にある小中学を一緒にした義務教育校の児童数は数人前後というような行政事情だけでなく、島を結ぶ唯一の足である村営船の運行状況・各島の歴史から暮らし、地理、動植物、味覚、祭り、温泉、釣り場、宿泊施設の現状などなど何でも要約できそうで出来ず、さて何故か — 理由は簡単、百聞は一見にしかず、いくら公的機関の発行といっても書物の受け売りほど怖い物は無いことに気づいたのです。日食は遠か先の事だから、全ての状況は予想できないほど変化するのは当然 — だからといって、現地に足を運ぶことなく、本誌のような信頼性の高い専門誌に、見てきたようなマコト (!) が書けますか。

③6月21日、吐葛喇列島の中の島を訪ねる

私事になりますが、この4月から毎日が日曜の生活に入りました。5月は秋田へ日帰り、5月に18日間のイギリス行きを済ませ、6月は北海道を計画し、7月には..と考えていた矢先、正確にいうと6月3日の朝日新聞朝刊の折り込み「朝日旅行」で「初めての特別企画・秘境トカラ列島へ・旅通の旅」が目にとまりました。久しく団体旅行から遠ざかっていましたので躊躇しましたが、遠い所へ経済的に出掛ける計画を立てるのが下手なので、

思い切ってアナタまかせ、2泊3日のトカラ・ツァに参加することにしました。十余人の同行者はもちろん添乗の方までも吐噶喇列島は初めて、という旅でした。鹿児島島の港から8時間の船旅、最初に停船した口之島を出て間もなく、5時半に東京よりずっと遅い日の出を拝み、6時に中之島に到着、大喜旅館で休息と朝食後、村役場の車2台に分乗して、御岳頂上近くの民間テレビ中継所（ここから島のほぼ全景と噴煙を上げる諏訪之瀬島・平島・臥蛇島が一望できる）、トカラ馬の牧場、御池（別名が底なし沼）、ヤルセ灯台、ヤルセ牧場などを一巡しました。運転兼案内は村の公務員、なにせ観光を業とする人は一人もいないのです。昼食の後は自由行動で、釣り、水泳、散策、海中温泉など；早めの夕食を済ませ、予定より40分早い18時半に定期船に乗って再び8時間の船旅（日の入りは雲の中）、深夜2時15分に鹿児島へ戻り、ホテルに一泊。ごく短期間でしたが、得難い初体験をしました（そして東京に着いた夜、ワープロを叩きはじめたのです）。

④「東シナ海を一人占めしたぜいたくな島TOSHIMA」 — 小冊子「吐噶喇」より

無人の3島を含めて10島から成る吐噶喇列島の行政区域は、鹿児島県十島村。その役場の所在地は島ではなく、〒892 鹿児島市泉町14番（☎0992-22-2101, FAX 0992-23-6720）です。かつて最も大きい中之島にあり、最近も元に戻そうという動きがありますが、現在中之島にあるのはその支所（☎09912-2-2101）だけです。問い合わせは本所の企画観光課または教育委員会がいいでしょう。島を結ぶ村営の定期船「としま」は1090t、大きさは74.0m × 11.6m、航海速力17ノット、旅客定員248人。原則として月に、鹿児島—名瀬を3往復、鹿児島—宝島を5往復、出発は22時、帰着は3日目の3時（宝島便）または4日目の1時（名瀬便）。その日程は1月前にならないと発表されません（ただし例えばこの7月は、隣村の硫黄島などにも運行したり、参議院の繰り上げ選挙のため、日程は大幅に変更されました。問い合わせは同村船舶課）。従ってどの島に行くにしても、往きの便はもちろん帰りの便も十分に調べて計画する必要があります。台風シーズンのほか海の荒れる季節には、欠航ないしは接岸不能を覚悟しなければならないでしょう（十年も前ですが、21日間も運航が絶たれたことがあったそうです）。

鹿児島からの運航距離、所要時間（時：分）と片道2等運賃は、口之島 204km, 6:40, 4810円、中之島 222.5km, 8:00, 5090円、平島 252.5km, 9:50, 5430円、諏訪之瀬島 272.5km, 11:00, 5570円、悪石島 292.5km, 12:10, 5840円、小宝島 327.5km, 13:50, 6320円、宝島 342.3km, 14:40, 6530円、（名瀬 432.3km, 18:10, 9570円）。逆に名瀬からは悪石島までを例にとると 139.8km, 5:40, 3830円です。定期船以外の足としては、屋久島—7島—名瀬の間を運航する高速観光船「ななしま」という38t, 12人乗りのチャーター船があります。

島の宿泊施設は、中之島の大喜旅館（定員20人、4000円、☎09912-2-2110）以外には、民宿が各島に1軒ないし5軒（定員6-20人）ありますが、一般の宿とは趣がかなり違うかもしれません。次に各島の基礎的なデータとして、面積・周囲・最高点・人口；それに二

つ三つ特徴的なことなどを記します。出典は「吐鶴喇」ですが、文責は筆者です。

口之島 13.25 km², 13.3km, 628.3m, 183 人。天を向いて開き香りが強いタモトユリという県指定の天然記念物、百頭ほどの純血種の野性牛、セランマ温泉などが有名。旧暦の11月に霜月祭り、これは新しい酒やサトイモを供え、お宮を回って家族の健康を祈る。

中之島 27.54 km², 28.0km, 979.0m, 214 人。海と山と池の三つの顔をもつ十島村の中心。日本馬の原種のトカラ馬が23頭飼育保護されている。野性の山羊も知られる。筍・椎茸・田芋・山羊料理。盆踊り・出端・太鼓の大踊り・垣まわり・小踊り・狂言。

平島 1.99km², 4.5 km, 242.9m, 74人。サンゴ礁上を放牧牛が遊ぶのどかな島。七島正月、カセダウチなど毎月のように旧暦の行事。天を突くようなガジュマル（巨木）は、強い日差しを遮り、長い年月の間に雨風と潮に打たれ、神秘的な造形物となっている。

諏訪之瀬島 22.32 km², 24.5km, 799.0m, 59人。火山活動が盛んで、1813年に大噴火し溶岩は海にまで流出、島人は全員避難して、1883年まで無人島。現在も噴煙を上げ、夜の光景は圧巻。旧暦の8月を中心に年に8回も祭りがあり、部落全員が参加する。

悪石島 7.03 km², 8.8 km, 584.0m, 67人。仮面神ホゼの棲む神秘と海中温泉の島。熱帯性の樹木群が鬱蒼と繁り、神山聖地の扱いをされる。トビウオの天日干し、筍の缶詰。ここにも御岳。NTT の超短波中継所。西海岸に立神岩・湯泊海岸の自然林・琉球竹林。

小宝島 1.16 km², 3.2 km, 102.7m, 46人。風化した奇岩がそそり立ち風葬の残るミステリアスな小島。廃校となっていた分校が十年ぶりに再開。ソテツやアダンの密林・ヒロ一樹林。燻製エラブナギのスープは子宝に恵まれない女性に効き目があるという。

宝島 5.94 km², 12.1km, 291.9m, 147 人。鍾乳洞に宝島の伝説を語り、星砂の降るロマンチックな島。旧暦8月16日の夜、豊作を祈る田の神まつり。海賊の住む地下の宮殿ありと古記録に残る。1824年英国船が来航、ザイバン屋敷の下の坂をイギリス坂と呼ぶ。

あとがき

この第零報は、鬼が笑い転げるほど遠い将来の皆既日食観測行きの参考には全くならないでしょう。むしろ、15年後ごろには、アマチュアに先んじて業者（開発・旅行・雑誌・メーカーと色々ありますね）が大騒ぎして秘境どころではなくなる恐れのある吐鶴喇列島に、今のうち足を運び、ゆっくり休養しながら見事な自然と星空を楽しみたいという読者のために、多少でもお役に立てば幸いです。筆者自身もこれから何回か訪ねて島に泊まり、素朴な村人と貴重な自然に接して長生きし、2009年になっても幸いにしてどれかの島（中心線から数十km離れた宝島 — 1958年金環日食でも話題に、なんと懐かしい名前！ — または無人の臥蛇島でも継続時間は5分間以上もある）に足の踏み場が残っていれば、1963年の北海道日食以来久しぶり、自らにとっては国内で見える最後の黒い太陽を眺めながら、喜寿を祝うことが念願です。真夏7月22日の晴天を祈りましょう、17年1月（比喩）前の現地が波静かで好天に恵まれたように。